

2) 海洋文化資料の管理保存に関する調査

板井英伸¹

キーワード：海洋文化 海洋文化館 資料調査 管理保存技術 資料データベース

1. はじめに

本事業では令和3年度に引き続き、海洋文化館の展示・収蔵資料の取扱い・点検・管理方法を確立するために、展示・収蔵資料の状態調査を行うとともに、既存の資料リストの内容について精査し、その校訂を行った。

また、海洋文化館の展示・収蔵資料に関する学術的調査を実施し、外部からの問い合わせにも対応した。

2. 海洋文化資料の管理保存に関する調査

本調査の目的は、海洋文化館の資料を適切に管理・保存することにより、同館の安定的な運用を保証し、かつ研究施設としての財団の実績を蓄積して、資料の管理保存に関する役割を確立することにある。また、同技術を資源化することによって、将来の事業化も期待できる。

以上について、総合管理部など財団内の関係部署と協力して対応するとともに、調査を継続して基礎データの作成・蓄積に努め、実用的な管理マニュアルの策定と実践を目指す。

今年度は館内・収蔵庫内の温湿度データを分析し、10月22日に実施した資料状態調査の結果を関係部署と共有して、資料リストを更新した。

また、12月15日には屋外展示の一部資料（サバニ3種類）に発生した木屑について、調査展示係およびイカリ消毒沖縄株式会社とともに調査し、原因と思われるヤスデ駆除方法（ムシクリン MC 塗布）について確認したうえで、次年度の実施および当該資料の展示または保存環境の改善に向けて調整した（写真-1）。

3. 収蔵・展示資料調査及び外部問合せ対応

愛媛大学・柴田昌児教授からの問合せにより、

11月1日に展示資料のクラ・カヌーの堅板の固定方法について調査を行い、報告書を作成した（写真-2）。

沖縄のハジチ、ポリネシアのタトゥーに関する資料調査を実施し、その成果を活用するとともに都留文科大・山本芳美教授、金城学院大学・桑原牧子教授の監修および（株）Nanseiの協力を得て、8月7～28日に海洋文化館において企画展「ハジチとタトゥー」を開催したほか、8月21日には山本・桑原両教授を講師に迎えて同名のミニシンポジウムを開催した（写真-3, 4）。

加えて山本教授率いる都留文科大学スタディツアーの一環として、8月22日に海洋文化館および近隣の備瀬集落を案内した（写真-5）。

4. 外部評価委員会コメント

サバニ船体の虫害駆除およびクラ・カヌー船首部の堅板固定方法の検証などを適切に行い、展示品の品質管理を可能にする保存手法は不可欠である。また、常設展示だけでなく企画展「ハジチとタトゥー」を開催し、イレズミの沖縄とポリネシアの比較展示とイレズミ研究の第一人者によるシンポジウムを開催して、身体加工・装飾の実際を理解することができる貴重な機会を提供した点は高く評価できる。（須藤顧問：堺市博物館 館長）

収蔵資料の維持管理についての恒常的な努力が行われている。ハジチ・タトゥーの企画展や講演会も沖縄と南方世界の関係を示す意味で意義が大きかった。今後も海洋文化館展示更新に関わったアドバイザー各位を積極的に活用していただきたい。なおデータベースの整備はどうなっているか、また予算執行が0%であった理由などを伺いたい。（後藤顧問：南山大学 教授）

¹普及開発課

表-1 令和4年度調査表例（展示室内のコーナー別に温湿度変化をグラフ化している）

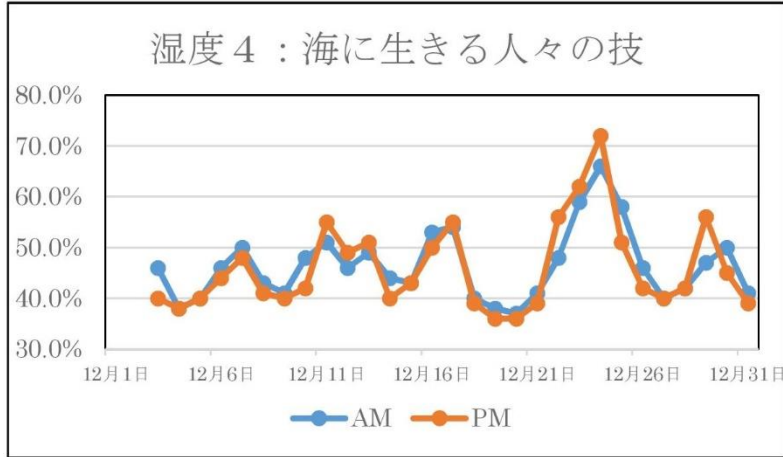


写真-1 屋外展示資料の木屑調査



写真-2 クラ・カヌー縦板固定方法調査



写真-3 シンポジウム「ハジチとタトゥー」



写真-4 企画展「ハジチとタトゥー」



写真-5 都留文科大学スタディツアー資料